

講演会・カンファランス等のご案内

北九州地区小児科医会のご案内

第555回北九州地区小児科医会4月例会（終了）

日時：2019年4月18日（木）19:30～20:30

場所：小倉医師会館 4階

演題：「家庭看護力の醸成」

演者：北九州市立八幡病院

小児救急・小児総合医療センター

小児科部長 西山 和孝 先生

第556回（第7回北九州ワクチンフォーラム合同）

日時：2019年5月14日（火）19:00～20:15

場所：北九州市立商工貿易会館 2階多目的ホール

演題：「百日咳の現状とワクチン対策」

演者：福岡看護大学 基礎・基礎看護部門 基礎・専門分野

教授 岡田 賢司 先生

その他講演会などのご案内

第421回小倉小児科医会臨床懇話会

日時：2019年5月23日（木）19:00～

場所：国立病院機構小倉医療センター地域医療研修センター

演題1：「発達障害からの不適応が原因と考えられた
解離性障害の女児例」

演者：国立病院機構小倉医療センター

小児科 安永 由紀恵 先生

演題2：「母の再婚を契機に愛情遮断症候群による
成長停止をきたしたAD/HDの女児例」

演者：国立病院機構小倉医療センター

小児科 緒方 怜奈 先生

第50回北九州子どものこころ懇話会 記念講演会

日時：2019年5月10日（月）19:30～21:00

場所：総合保健福祉センター（アシスト21）2階

講演：「親子の心の診療マップ」

—多職種連携を目指して—

演者：久留米大学小児科学講座

准教授 永光 信一郎先生

産業医科大学カンファランス・セミナー

産業医科大学小児科セミナー

日時：2019年4月25日（木）18:00～

場所：産業医科大学大学2号館2階 2208教室

演題：英語論文の書き方講座

-自力で論文を作成するために重要なこと-

演者：産業医科大学小児科 保科 隆之 先生

産業医科大学小児科クリニカルカンファレンス

日時：2019年5月13日（月）19:00～

場所：産業医科大学大学2号館2階 2208教室

演題：急性脳症の診断と治療

演者：産業医科大学小児科 石井 雅宏 先生、福田 智文 先生

五十嵐 亮太先生、柴原 淳平 先生

※4月のクリニカルカンファレンスおよび5月のセミナーは
お休みです。

保険診療メモ

小児の理学療法 (リハビリテーション)

最近、大学病院や地域の中核病院で小児理学療法の事例が増加傾向にあり、一般病院やクリニックでも実施されつつあります。小児期の理学療法の普及と質の向上を目指して「日本小児理学療法学会」も発足していますが、最近の状況については、「小児リハビリテーション実態調査報告書 (平成29年3月31日、公益社団法人日本理学療法士協会)」が一読に値します。協会員が所属する全国約6,000施設を対象にアンケート調査したのですが、以下はその概要です。

上記報告書によると、小児に対する理学療法は40%弱の施設で実施されていますが、ここ数年全国的に増加傾向にあり、100~300床未満の総合病院、一般病院での実施率が高く、常勤の理学療法士を10名程度配置して対応しています。対象疾患については、「骨・関節疾患」(43%)、「脳性麻痺」(24%)、「神経・筋疾患」(20%)、「精神運動発達遅滞」(18%)で、運動器が多い傾向にあります。また、精神運動発達遅滞・、染色体異常・発達障害で50%近くを占めており、筋緊張低下、筋力低下による運動発達遅滞、行動異常等が多いものと思われます。骨・関節疾患 (43%) には、骨折、先天性内反足、オリエール病、ペルテス病など小児特有の骨関節疾患に加え、スポーツ外傷も含まれていると判断されます。

リハビリテーション料の算定については、「運動器」(75%)。「脳血管」(54%)、「呼吸器」(19%)、「廃用症候群」(11%)、がん (5%)、心大血 (3%) の順ですが、新生児、乳児期早期については、入院例には其々46%、37%、また、外来においても、62%、47%の施設で実施されていません。日常生活活動療法は、歩行練習 (62%)、姿勢動作練習 (51%)、応用動作練習 (45%) の順で、呼吸理学療法は、徒手療法・体位排痰法・リラクゼーションが30%、装具療法は、下肢装具と車椅子・歩行補助具に関する介入が30%前後という結果です。発達検査では、遠城寺式乳幼児発達検査が用いられていますが、乳幼児期に限定される検査であるためか全体的には16%と低率です。

施行単位数は、平日は1日1~3単位が最も多く、土曜・休日は実施していない施設が多い状況です。また、理学療法終了の目安については、「独歩ができる」(37%)、「なし」(34%)、「他機関へ移行 (紹介)」(29%)、「階段昇降ができる」(23%)と続いています。その一方で「一生涯」が10%という結果です。

小児理学療法の概況は以上の通りですが、診療報酬上、「リハビリテーション料」は一日6単位 (120分) まで算定可能です。しかし、小児の場合、児の月年齢、病状、疲労度等を考慮する必要があり、一日おおよそ3単位 (60分) までが適切と考えられます。それ以上、とくに5単位以上行う場合には、適応となる傷病・病態および実施内容、効果についてコメント等が必要と考えられます。なお、実施時間が20分に満たない場合は基本診療料に含まれますので算定できません。

また、知的障害を有することが多いダウン症候群例に対して、新生児・乳児期から理学療法を行っている場合が少なくありませんが、早期からの理学療法介入の明確なエビデンスは見当たりません。ダウン症候群を含む先天性奇形症候群の発達予後と介入のエビデンスの蓄積と検証を要するものと思われます。いずれにしても、ダウン症候群等での算定に際しては、歩行障害や知能障害、言語障害など、改善を目指す機能障害を明示することが求められます。

現在、小児で算定されることの多い「脳血管疾患等リハビリテーション料」について、次の機会に概説します。

(福岡県小児科審査員連絡会)

役員会報告（4月4日：木曜日）

協議事項・報告事項

①毎週の定点からの報告について：

これまで吉田雄司先生から引き続き古村速先生が毎週まとめて報告していましたが、県医師会からの報告で代用したらどうかとの意見が出ました。今回の役員会で承認されました。近いうちに報告が変わる予定です。県医師会担当者から正式な許可がありました。

定点以外の先生方は、特殊な感染症やインフルエンザが流行りだしたら各自メーリングリストに流して情報発信してください。吉田雄司先生・古村速先生、これまで有難うございました。

②小児医療先進都市づくり会議：

3月26日（火曜日）に市庁舎で北九州市の小児医療先進都市づくりの会議がありました。産医大の楠原浩一委員長のもと、小児救急、虐待、小児在宅、発達障害児等の問題を検討いたしました。各代表の先生方の活発なご意見がありました。地区小児科医会のいろいろな意見を行政の方に要望していきたいと思います。

③福岡食物アレルギーネットワーク：

当会が後援するか、今後の情報収集で検討する

委員会報告

1. 学術委員会報告：神菌淳司

6月は感染症と合同の予定

7月20日（第4土曜日）は産業医科大学主催です。

2. こども健康ニュース：綾部信彦

『食物アレルギー』近々発行予定です。

3. 発達障害・療育対策委員会報告：原田博子

3月14日：「多職種で考える発達障害と療育研究会」講演会
演題「発達障害の初期対応と多職種連携がもたらすもの」
講師：久留米大学医学部小児科学講座 主任教授 山下裕史朗
医療機関93名(医師47名)をはじめ、201名の参加がありました。

4. 感染症予防接種委員会報告：古村速

3月15日に委員会を行いました。北九州地区小児科医会のホームページの予防接種、感染症に関する項目に見直しをし作業をし、今回は特に変更点がない事の確認をしました。